

晩秋から早春へ

一 佐伯史談会の動き

○ 四国・中国バスの旅

恒例の秋の研修旅行、三泊三日のバスの旅。春から準備していただけに、会員の皆さんからも期待され、申込受付一時は六十五名まで伸びたが、結局四十四名。予定通り松山―大三島―彦島を結ぶ、豊後水道、瀬戸内海、瀬戸内を船で渡った。最年長の寺島万治会員は「佐伯史談会晩秋の旅」と題した長文の記録を寄せられたが、掲載の余裕がないままに、羽柴幹事の手許で表紙をつけ、保管することとした。旅とヤ、れたい。

○ 恒例年 末集會

役員会をかね十二月十八日すし安で開いた。これは毎年のことながら年末反省会であり、研修や奉仕につくされた会員のねぎらいを兼ねた親睦会でもあった。出席三十六人。盛會。

○ 年 頭 初 歩 き

一月二日、例年のように初歩き。今年も佐伯市街周辺十分歩めぐり、十七名の方々が参加した。全員自転車使用。まず若宮八幡社参拝、待方宮司による祈願の後、御神酒をいただいた。銀輪をつらねて佐伯招魂所、五所明神、野岡山公園、長島天神とめぐり、渡

前山小笠原、空剣山古墳、そして内所神明社、最後が住吉神社で解散した。正午少し前であった。

○ 直川史談会の堅田巡り

一月十六日直川史談会山下会長以下殆んど全員堅田郷の史跡めぐりを実施。羽柴が案内役を承った。(マイノバス、普通車二台使用)まず下城遺跡、それから長良貝塚、宇山城址、その下のお島半蔵の比翼塚、堅田川の河道変更の工事、羽柴・竹角の墓、世稱造改善事業の事情、予定外のいい見どころがあった。

○ 招魂所に採苗の植込

昨年慰霊祭の節詠の採苗、幸いその年の苗水が手に入らしたので、三月六日午前九時より、植込作業には次の九名の会員が当った。高木嘉吉、清田義雄、寺島万治、神田繁雄、上野太郎、中畑、鎌田守雄、岩田善市、藤岡田三平夫 (抜粋略す)

○ 弥生所の文化講演会

一月二十三日、弥生所教育委員会の主催、県立佐伯鶴岡高等学校校長井上十三郎先生の講演会を、佐伯史談会が協賛後援した。「歴史以前の―」と題する宇宙創成の奥から地球の生成、日本列島の成り立ちといった、地学のかなり高度のお話であった。しかし聴衆は熱心に聞いた。この日も半分は佐伯史談会員。

○ 羽石秋空の書芸について

佐伯高校の鶴生先生の講演会、これは佐伯市教委と共催といったところ。文化会館で開いて盛會であった。鶴生校長先生の大量の手紙に、頭がさびった。二月十一日実施。秋空の詩と書は、もっともっと賞揚されたい。

○ その外もいろいろ

一月二十八日伊勢久信「邪馬台国」論聴講(多数) 一般会員に広く案内出来なかった。二月二十七日大分探検アルコウ会(会長兼子俊一氏)バス二台で来られた。榎原礼城址登山は羽柴、小野(奥)宗内、羊敷の白浮遺跡見学班は高木、清田が二相手。よい奉仕の日であった。三月二十四日、弥生所祇園、橋迫家訪問、先生と春次先生にお話をきく。(高木・羽柴・清田出かけた)